



## 今回は、SGH活動の成果を生かした進路開拓について報告します。

◇ 和歌山大学観光学部 推薦入試合格 西尾麻耶さん

私は、志望校であった和歌山大学観光学部に合格することができました。本当にたくさんの方に支えられたおかげで、この合格をつかみとれたと思っています。友人、家族、後輩、そして先生方には感謝のことばしかありません。私が今後輩の皆さんに伝えたいことは、3つあります。

1つ目は、部活動の大切さです。私は高校3年間吹奏楽部として活動してきました。入部した頃は、中学生時代も吹奏楽部に所属していたからなんとなく続けようかなという軽い気持ちでした。しかし、部活動に取り組むほど中学生時代には味わえなかった吹奏楽部のやりがいを感じるようになりました。

また、部活動の中で信頼し合える仲間にもたくさん出会うことができました。どの部活動でも楽しいことだけでなく苦しいこともあり、時には辞めたくなくなってしまうことがあると思います。しかし、部活動を最後まで続けることに意味があると私は思います。最後までやり遂げることで忍耐力が身につく、受験を乗り越える上でとっても大切になってきます。部活動の仲間とは共に様々な壁にぶつかってきたからこそ、受験期にはお互いに支え合える大切な人となります。これからも部活動に精一杯取り組み続けてください。



2つ目は、授業の大切さです。私は3年生の11月、突然入院をすることになりました。センター試験前の突然のハプニングで、自分自身起こった出来事を受け止められない状態になりました。入院中も勉強をしようと思えばできます。しかし、周りに一緒に頑張るクラスの仲間がいない状態での勉強はとても辛いものでした。

普段何気なく受けている授業も、全てが受験を乗り越える上で必要となってきます。先生の授業をクラスの仲間と受けることは当たり前のことです。でも、その当たり前のことが大事だと私がしっかりと気づいたのは、入院をしてからでした。だからこそ、後輩の皆さんには少しでも早く授業の大切さというものを知ってもらいたいです。

小テストや予習などは本当にやってる意味があるのか。面倒臭いと思うこともあると思います。しかし、今になってもっと真面目にひとつひとつの小テストに取り組んでおけば、という思いが私の受験期の本音です。全ての授業に意味があると信じて勉強に取り組んでください。

3つ目は、SGHの大切さです。正直SGHに初めて取り組んだ時は、「これをやって何の意味があるのか?」と思っていました。部活動の前にSGHがあると、SGHをやっている時間に部活動をやりたいと思うほど、私はSGHに対してマイナスなイメージしかありませんで



した。しかし SGH の活動で大学進学を決める先輩がいることを知り、私の SGH に対する意識が変わりました。

1・2年次の課題解決型研究だけでなく、スターバックス・コーヒーの活動や外国人の子供が通う小学校訪問など、様々な SGH 活動に参加をさせてもらいました。その中でも特に私の中で印象深いのは、地元のお店や企業への訪問です。そば処を営む山久や、彫刻刀シェア日本一を誇る義春刃物を訪れ、実際に1対1で話を伺うことで、より深いところまで話を聞けたと思います。山久では、お客として来店していた香港人の方にもお話を伺うことが出来ました。義春刃物の方とは後輩の子と一緒にあって関のサービスエリアでのワークショップを行いました。私は現地でしか味わえない体験することの素晴らしさに気付かされました。私自身受験をする際、推薦という形で面接試験に挑みました。面接の場面では、面接官の方にとっても SGH のことに興味を持ってもらい、私も自身の経験を多く語りました。SGH の活動は関高校に通っているからこそ出来る大きなアドバンテージです。受験の時に役に立つことも多くあるので、ぜひ SGH の活動に積極的に参加をし、自分自身の視野を広げてみてください。

たくさんの経験を通して、何かひとつでもいいので自分が周りの人に語りつくせるような事をぜひ見つけてください。もし、この合格体験記が少しでも参考になったら嬉しいです。